

## 第29回 白川・東白川地域公共交通活性化協議会会議録

### 1. 開催日時

令和6年1月16日（火）午後3時から午後5時まで

### 2. 開催場所

白川町町民会館1階大研修室

### 3. 委員（32名中21名出席）

所 属 等	氏 名	備 考
白川町長	佐伯正貴	会長
東白川村長	今井俊郎	副会長
名古屋大学大学院環境学研究科教授	加藤博和	副会長
白川町副町長	安江章	座長
白川町議会議長	藤井宏之	
東白川村議会議長	今井美道	
公益社団法人岐阜県バス協会専務理事	木村治史	欠席
濃飛乗合自動車株式会社運輸事業部長	有路秀彦	代理 鈴木高俊
岐阜県交通運輸産業労働組合協議会	山下光生	
大新東株式会社	佐藤久仁	
東海旅客鉄道株式会社東海鉄道事業本部	豊田智隆	欠席
医療法人白水会白川病院	松本茂	
白川町自治協議会会長	田口良一	
白川町商工会長	長尾達美	
白川町観光協会会長	鈴木雄二	
白川町シニアクラブ連合会長	古田博彦	
白川町公共交通利用者代表	笹本恵子	
白川町中学校PTA役員	藤澤優	欠席
白川町校長会会長	瀬瀬真彦	
白川町バス通学高校生保護者代表	塩月洋生	欠席
白川町社会福祉協議会	松山良悟	欠席
東白川村区会長	安江勲	欠席
東白川村シニアクラブ連合会代表	安江浩	欠席
東白川村高校生保護者会代表	安江真博	欠席
中部運輸局岐阜運輸支局首席運輸企画専門官	山田慎児	
中部地方整備局岐阜国道事務所管理第一課長	明慶幸司	欠席
可茂土木事務所施設管理課長	若園賢一	
加茂警察署交通課長	松原由幸	代理 青木尚

岐阜県都市建築部都市公園・交通局公共交通課長	城戸協研一	欠席
東白川村副村長	桂川 憲生	欠席
白川町役場建設環境課長	三ツ石克明	
東白川村役場建設環境課長	有田 尚樹	

#### 4. オブザーバー

所 属 等	氏 名	備考
白川地区地域部会長	今井和秀	欠席
白川北地区地域部会長	長尾 隆	
蘇原地区地域部会長	山口多利	
黒川地区地域部会長	藤井秀男	
佐見地区地域部会長	熊崎吉夫	

#### 5. 会議次第

- 1 会長あいさつ
- 2 副会長あいさつ
- 3 協議事項
  - (1) 白川・東白川地域公共交通計画2028（案）について
- 4 その他
  - ・次回の会議について

#### 6. 会議内容

協議事項（1）白川・東白川地域公共交通計画2028（案）について 事務局より説明

（委員）

18ページの前計画の施策の中で取り組みができなかったものとして、施策③-2に観光を切り口としたワークショップの実施による来訪者のための公共交通のあり方の検討がありますが、新しい計画の中には観光の視点を取り入れるという記載がないように思われます。観光も含め来訪者の対応をどう進める認識でいますか。

（事務局）

新しい計画の中では、施策としてホームページやSNSのリニューアルによって町村内はもちろん、町村外も例えば、大学の合宿等を白川町に誘致する場合にホームページ等を調べて行き先やどうやったら行けるのかということがわかるようにできれば利用していただけるのではないかと考えています。デジタル技術を活用した使いやすいシステムの導入では、それにより検索から予約等の一連の操作ができるようにと考えています。また、レンタサイクルの取り組みは主に観光客をターゲットとし、地域の宝である自然を感じていただけるような内容にできればと考えています。

(委員)

20ページのアンケートでの意見では、認知不足ということが挙げられています。新しい計画では、おでかけツアー等の取り組みを通じて新しい使い方を提案するというものがありますが、そもそもの利用の仕方であるとか乗り方がわからないといった方には、乗り方教室や住民の方に集まっただき一緒に乗り方について勉強する機会が必要だと思いますが、新たな計画にはそういうものは盛り込まれますか。

(事務局)

認知不足の対策として、地域の集まり等の機会で公共交通の利用の仕方やパンフレットを作って周知を図りたいと考えています。

(委員)

同じく20ページの遠慮による利用控えの対策として、施策の中に小さな車両を利用し乗りやすくしてハードルを下げるというものがありますが、利用いただく皆さんが歩くことで地域の活性化が図られるということもあり、乗り換えに対する考え方や意識を変えていくという施策も必要ではないかと思えます。

(事務局)

施策①-3より柔軟なサービスの研究では、タクシーのような利用ができないかという要望を受け、それについても研究を重ね使いやすいシステムの構築に向けて考えていきたいと思えます。

(委員)

目標として利用者数の増加をはじめ、いろんな目標を掲げていますが、利用者を増やすために車両台数や運転手の人数等を増やすということであればコストも増加すると思えますが、目標を達成するためのコストや町村の負担をどのように考えていますか。

(事務局)

目標⑤では、予約制バスの乗り合いを多くすることに視点を置き、1人1人を1回1回運ぶのではなく1回の運行で乗る人数を多くすることで効率化を図り、コストを抑制しつつ利用者を増やすことを目指しています。また、目標①では、利用者を5年間で2,877人増やすことを目標としていますが、今後人口が減少する中、利用者を増やすには観光での利用や大学の合宿等での利用といった外からの利用を取り入れていかなければいけないと考えています。

(委員)

31ページの施策①-4に記載のある集落支援員制度というのはどういったものですか。

(事務局)

集落支援員制度というのは、集落の中の困りごとに対して人材を充て、その困りごとの解消に

取り組むという制度です。この制度を活用する理由としては、集落支援員の人件費に対して国からの財政措置がありますので制度を活用することで町の負担を抑制しようとするものです。

(委員)

17ページの前計画の施策で、地域部会が地域内で運転手として協力してもらえる方の募集に取り組み、現状では運転手は足りているということですが、今後もこの仕組みをうまく回していくためには、地域部会や地域へのはたらきかけや相談が重要になると思いますがどのように考えていますか。

(事務局)

今年度から地域運転手を予約制バスの運行業務委託事業者に雇用してもらい、事業者として運行体制の強化と合わせて運転手確保にも取り組んでもらっています。これにより運転手は充足している状況ですが、地域部会の活動は運転手の確保だけではなく、各地区の中で使い方の周知等に取り組んでいただくことを期待しています。

(委員)

公共交通の運転手さんの思いを聞くことや安全安心に勤めていただくためにも心のケア、働く人たちの意思疎通を図るといったことが必要だと思いますがどうでしょうか。

(委員)

前回の会議でも運転手の意見を確認してほしいという意見をいただき、私も運転手との話し合いをしたり、心のケアについて考えました。運転手もそれぞれ業務に対していろんな思いを持っていますが、この公共交通という事業自体がどういった目的で行われているのか、お客さんの対応でどういったことが正しい方法なのかということを運転手と話し合い、その目的や目標といったものを共有しています。

計画案の内容については、29ページの施策①-1に白川町蘇原地区のゾーンの見直しとありますが、ゾーンだけでなく各地区の運行も見直していかなければならないと思います。蘇原地区だけでなく、各地区の運行の見直しについても少し施策に含めてもらえるといいと思います。

(事務局)

運行の見直しはゾーンだけでなく、JRの時刻が変わったときには見直しが必要となりますし、いろいろなニーズに対応するように変えていかなければならないと考えています。運行については毎年見直していきたいと考えています。

(委員)

この会議で協議を重ねることで、一つずつ問題が解決され利用者へのサービスが充実してきているように感じています。ただ、その中でこのサービスを受ける利用者の意識がどうなのか、まだまだ公共交通に関してはやってもらうという立場の人が多く感じています。利用することだけでなく公共交通をよくするために自治会等と一緒に自分たちができることを話し合う必要があ

ると思います。

(事務局)

今回の計画案では、移動の制約が多い子ども達の利用について施策としておでかけツアーに取り組みとしていますが、子どもに限らず全ての世代でおでかけツアーを実施し、楽しみと関連付けて公共交通の便利さや、こんなことにも使えるといった気付きがある取り組みにしたいと考えています。

(委員)

公共交通の教育に関する事で、高校生になる前に当たり前で公共交通を使えるようにしておくということがとても重要になると思いますが、小学生の頃から家族と一緒に使ってもらような取り組みをしないと公共交通を使うことが当たり前ということにはならないと感じます。

また、白川病院ではデジタル化の取り組みを進めていますが、病院の予約とバスの予約を一緒にすることができないかということや、今後オンライン診療を進める中で薬を自宅に届けるということが必要になり、その手段として公共交通がうまく使えないかということを考えています。

(委員)

施策にホームページ・SNSのリニューアルとデジタル技術を活用した使いやすいシステムの導入というものがありますが、観光客だけでなく、白川町や東白川村出身の人が里帰りでJRを利用して駅で降りた後、バスをどう利用したらいいかわからないということがあります。それは行政や観光協会のホームページが連携できていないということと、ホームページでうまく案内できていないことが原因だと感じています。また、高校生が昼間のバスの予約がネットでできるようにしてほしいという意見があり、こういったことにデジタル技術が必要だと思いますが、こういった仕組みを考えていますか。

(事務局)

ホームページに関しては、他自治体のホームページではトップページで公共交通の案内がされているものがありますが、おでかけしらかわ・ひがししらかわのホームページはそうはなっていません。白川町のホームページも現在リニューアルに取り組んでいますので、公共交通の案内や観光協会のホームページとの連携ができるものにしていきたいと考えています。また、デジタル技術の活用については、現在検討中であり現時点で具体的にお示しすることができませんが、予約しやすいものであったり、いろいろなニーズに応えられるシステムを研究し、最適なものをつくっていききたいと考えています。

(副会長)

まず、皆さんに申し上げたいのは、今までの発言は事務局はどう考えているのかばかりで、自分たちは何をやるのか何も言わないのでイライラしました。私は町村の人間ではないのにこの会議に来て、こうしたらいいとか考えて提案しているのに、どうして皆さんが他人事なんですか。どうしたらいいかわからなければ自分で乗ってみればいい。乗ったら貢献できますよ。百回の陳

情より一回の利用ですよ。一回の乗車が百回の陳情より難しいんですよ。生活の中で利用するのは本当に難しいことで、車に慣れているとか、今までバスなんか乗ったことないとか、そういう人が乗るといことは大変革なんです。実際に乗ってみて、いったいどういう問題があるのかとか、どういうふうにしたらもっと便利になるのかとか、そういうことを考えていただいてここで発言してほしいんですよ。そうじゃなかったらみんな他人事です。この協議会はそういう会ですよ。誰かにやらせる会じゃなくて自分がやろうとしていることに対して意見をもらうとかそういうことを聞いてほしい。地域の皆さんが役場に何をしてくれるのか、そんなことばかり言っていたら話にならない。例えばホームページをどうするかとかそういうことだと専門的だから、あるいは運行だって専門的だから、自分でどうするかってなかなかできないですけど、どうやったら近くの人が乗ってくれるのかとか、みんな公共交通について知らないって言ってますが、それはこのメンバーの責任です。このメンバー30人が10人ずつ伝えたらそれで300人、300人が2人ずつといったように伝えていけば9,000人全員が知るでしょう。なんでそういった案が出てこないんですか。役場が何をやるのかそんなことばかり言ってるじゃないですか。公共交通のことを伝えようとしたけど、なかなか伝わらないとか、もっとこうの方がいいと言われたとか、ここではそういったことを言ってほしいんです。推測とかいらないですよ。皆さんが推測してどうするんですか。皆さんはここで生活している人たちじゃないですか。それをしてほしいですよ。

それから、計画案に地域部会の話が全くない。元々この地域は交通事業者が非常に脆弱でなくなってしまうそうだったから地域が頑張らないといけないということでできた地域部会だったはずですよ。私も各地区を何度も回らせていただいていろいろ話をさせていただいた。2ページの目指すべき方向で資源と言ってますが、資源と言うことはあまり好きじゃない。人のことを資源と言うのはあまりどうなのかなと思うのでちょっと気になります。だけど、資源といたら地域部会っていうのがまさにこの何年かやってきた本当の資源じゃないですか。なのにその一番の成果である地域部会について書いてないっていうのは本当欠陥です。運行はある程度、大新東さんあるいは濃飛さんにやっていただけのらんだら、地域部会の仕事はまさに啓発とか利用促進じゃないんですか。そういうことをやると、ここが不便だから何とかしないといけなくなるときに、いったい地域で何ができて地域ではできないことは、事業者とか役場とかで何ができるかというようにボトムアップするわけです。そういうことが最終ページに書かれてないといけない。計画の進捗管理って書いてあるんですけど、計画推進そのものではないですか。進捗管理って計画推進の1つだから、この1. 計画の進捗管理ということ自体いらないと思います。計画推進のために何が必要かとなったときに、今のような地域部会が非常に大事だとか、具体的にどう進めるかということが抜けてますよね。打ち合わせでも言ったような気がするんですけど、深まっていない。なぜ深まってないかという、みんな他人ごとだから深まらないんですよ。自分だけなかなか広がらないんで、誰と一緒にどうやってやるかって考えるじゃないですか。そしたら、おそらく3月の会議では、この41ページの内容は5、6ページぐらいに深まるんじゃないですか、自分たちで考えるから。例えば私が考えたからこうやれっていうのは全く違います。具体的にどう進めるかって、皆さんが進めるのに、その皆さんが何も提案してないから貧弱です。あと、おでかけしらかわ・ひがししらかわの言葉も載っていない。こうやってブランディングするってしてきたじゃないですか。何でこのブランディングを捨てちゃうんですか。それぞれの地

区で予約制バスに名前つけている、これだって思いがあるんじゃないんですか。そういうのを大切にしましょうよ。それこそ資源じゃないですか、全然資源使っていないんですよ。

あと、3Kの話が出たんですが、3Kのことはこの計画に何も書かれてないですよ。これは時間がなかったのもそういう整理ができなかったっていうふうに思っています。3Kは何かというと、高校生、高齢者、観光客という公共交通を良くすると一番乗ってくれる人たちです。それに比べて、今日例えばこの会場に車で来られる方なんていうのはなかなか乗ってくれない。高校生だったら公共交通を良くすれば乗ってくれる、あるいは良くなることを望んでいる人たちですよ。どうしたら乗ってくれるようになるのかというのを、3章、4章で一応聞いたわけですよ。聞きたいことがきちんと反映されるように、高校生はこういうことを思っているの、この政策の何がそれに役立つとか、ということも3Kに対してそれぞれ政策がどういうふうの有効かを書いていく。例えば、高校生だったらやっぱりスマホとかそういうところをやっていかないといけないんじゃないとか、高齢者だったら一体何をどういうふうに訴えかけたりするとかという話になっていく。そういう整理が欲しいなって言ってるんです。

先ほど、教育とか乗り方教室みたいな話がありましたけど、最近私の場合は訓練と言って、先日鳥羽市の会議に出たときに、鳥羽市には離島が四つあるんですよ。離島だと元々バスなんか有史以来、走ったことがないからバスの乗り方なんて考えたこともないんです。ところが、鳥羽市で何をやるかという、離島から本土に行くには乗り場が2つあるんですけど、今回1つに集約しようとしています。それは、2つに行くとなかなか無駄が大きいからです。だけど、1つにすると商店街とかショッピングセンターに行くのが遠くなっちゃうんですよ。だからバスに乗り換えてもらわないといけないんです。バスに乗り換えてもらえないと船を降りてもそこに行けないのでどうしようもなくなる。船はものすごく金がかかるし、船員さんも本当に少ないんです。そうしたときに、どうしないといけないかと言ったら、もう訓練をやることにしましたよ。バスなんか乗ったことないから、乗るために離島の方は全員訓練すると。何月はこの地区の人がやるかというふうにしてますよ。そういうことって白川東白川でも必要になってくるんじゃないですか。これから75歳以上の方なんていうのは乗ったことなかったら、なかなかお年寄りって人に聞けないとか、あるいはもう乗らないって決めたら説得してもなかなか乗らないという人もいます。あるいは車にずっとしがみついている人も多い。そういう方に乗っていただけるようなきっかけをどうやって作るんですか。そういった内容が書いてない。だけど、そういうことをやっていかないと人が不幸になる恐れがあるんです。ずっと車に乗り続けることが幸せなんですか。車がないと住んでいられないので、町村から出てしまうことが幸せなわけじゃないんですか。だったら何とかしてやれるようにしてあげないといけないと、いったい皆さんは何をするんですか。役場が何してくれるんじゃないかと、皆さんに何ができますかと、それを書いてほしいです。それを皆さんが考えないといけないんで、私はこうやって喚起するのが精一杯だから、皆さんにやる気出してもらおうことが必要なんです。

最後なんですが、この地域公共交通の目指すべき方向が2ページにあります。これは今思ったんですけど、行儀がいい書き方ですよ。説明を聞いて代わりの案を言いたいんですけど、本気になって、地域の環境変えるとかね。そういうふうにしたらどうですか。まだ本気じゃないでしょう皆さん、今日、冒頭に話したとおり人口減少が激しいのは事実ですよ。だから、この現実を見たときに、本当に本気にならなきゃ駄目ですよ。2028年になったらどうなってるか、5

年後にこの会議したときどうなってるかと言ったら、この9,000人の白川東白川の皆さんが誰でもこの地域の公共交通、おでかけのシステムはこうだって説明できるようにするとか、それが目標でないといけないんじゃないですか。白川口駅で困ってる人がいたら、誰だって教えらる。ここに電話したら来てくれるよとか、あと何分したらバスが来るからそれに乗ってねとか、運転手さんに聞いたらいいよとか、そういうふうに誰でも教えられると、そういうふうにこの5年間でできませんか。それが今、問われてると思います。9,000人がみんなそうやって説明できるっていう町村はほとんどないでしょう。だけど、名古屋だと使ってる人が多いから結構できるんですよね。65歳以上だと敬老パスがあるとかって知っている。そういうことをちゃんとこの白川東白川の人たちがみんな知っている、それをまずやりませんか。そうしたら年に1回ぐらい訓練する。訓練して使えそうだったら使う、あるいは躊躇してる人に使ってもらうように呼びかける、そのとき説明ができる。そういうふうにみんな変わらしましょう。これまであまりにも公共交通のレベルが低かったので何とか引き上げようと思ってやってきましたけど、今度は皆さん自身がレベルを上げる時です。他の過疎地域だったら車じゃないと生きていけない、暮らしていけないというところだけど、白川東白川はそうじゃないと、他の過疎地域とは違うと。来てくれたらちゃんと教えるから、心置きなく気兼ねなく来てくださいと言えるような地域にしましょう。そうしたらホームページも変わるでしょう。みんながそういうことができるんだったら、そういうふうにホームページに書けるじゃないですか。今だったら、ホームページを見てもわからない、聞いても教えてもらえないでしょう。これじゃ駄目ですよ、変わらないと。だから、みんなが変わるっていうことを、私はこの目指すべき方向にしたらいんじゃないかと思いましたけど、どうでしょうか。

(事務局)

いろいろなお意見をいただきありがとうございます。皆様からいただいた意見を計画案に反映させたものを次回3月の会議に提出させていただきたいと思います。計画の策定に向け引き続きご協力をお願いします。

会議終了 午後5時